

【授業振り返り表】



小学校 授業振り返り表

平成26年度 多治見市研究主任会

レベル	小見出し	内容	
課題化	1	黒板に書いて位置づけている	
	2	課題づくりの基本	
	3		必ず課題を黒板に書き、赤色で囲むようにしている
	4		ノートにしていねいに課題が書けるように声かけをしている
	5	1単位時間の中で、できるだけ早い時間に課題を提示している	
	6	必然性のある課題づくり	
	7		単元を貫く課題に基づき本時のねらいにせまる課題をつくっている
机間指導	1	必然性のある学習課題になるようにしている	
	2	できる限り、児童の言葉をひろい、正しい言葉で課題づくりを行っている	
	3	声かけの方法	
	4		支援が必要な児童を中心に机間指導している
	5		できる限り多くの児童に声をかけ、認めるようにしている
	6	レディネステストをもとにつまずきを予想して机間指導指導している	
全体交流	1	赤ペンでよい意見に丸をつけている	
	2	児童への基礎的指導内容	
	3		よく理解できていない、考えが深まらない児童に対して、個別で指導にあたるようにしている
4	児童の発言	(机列表を持って)実態把握に努め、それを意図的指名等に生かしている	
5	児童の発言	全員挙手・グループ交流で全員が話す場の設定している	
6	価値付け	話し方・聞き方の段階表などを活用して指導している	
評価	1	ハンドサインを活用した挙手発言を指導している	
	2	質問・疑問、反対意見など自分の立場をはっきりさせて発言させている	
評価	1	意図的に児童の意見を価値付けている	
	2	児童の習熟を把握する評価問題を出している	
評価	1	児童の習熟を把握する評価問題を出している	
	2	授業の終末、理解不十分な児童への指導をしている	

時間配分	1	時間配分	授業を時間内におさめている
	2	個人差への対応	早く終わった子への指示を出している
	3	終末の時間	まとめや振り返りの時間の確保している
板書	1	構造的な板書	まとめは青で囲んでいる
	2		ていねいで正しい文字で書いている
	3		児童の思考や授業の流れが分かるように書いている

指導計画	1	意図性のある指導計画	個のつまずきに応じる具体的な指導の内容や方法を明らかにしている
	2		ねらいにせまる言語活動を充実させる
	3		系統性にもとづいて「学び直す内容」や「繰り返す内容」を明らかにして位置づける

中学校 授業振り返り表

平成26年度 多治見市研究主任会

指導過程	項目	ステップ	評価 ○△	内容 (※協議会は、東濃地区学力向上協議会 協議のまとめの抜粋)
つかむ(課題化)	課題の書き方	1		課題を赤線で囲み、黒板に位置付けている
		2		課題の文字を他の文字よりも大きめに書いている(見やすさへの配慮をしている)
		3		1単位時間の中で、できるだけ早い時間(5~7分後まで)に課題を提示している
	必然性のある課題づくり	1		課題をつくる時は、「今日の授業では、何ができればよいか」を確認してから、課題を作成・提示している
2			必然性のある学習課題になるように、既習事項の想起、課題を見つけるための資料・提示・事象提示等を工夫している ※協議会:「児童生徒が確かな問題意識をもって主体的に学習に取り組むことができる課題の生み出しを工夫する」	
3			生徒のつぶやきを拾い上げ、価値付け広めるようにしている	
4			できる限り、生徒の言葉をひろい、適切な表現で課題づくりを行っている	
ふかめるⅠ(個での追究)	自分の考え	1		課題(あるいは初発問)に対して、自分の考えをもつ時間を保証している
		2		「追究姿勢のよさ」を認めながら机間指導している
	声かけ認め励まし	3		(できる限り多くの生徒に声をかけ、よさや価値を積極的に褒めるようにしている)
		3		「考えのよさ」を認め、赤ペンでよい意見や考えに○やアンダーラインをつけている(指で示したり、褒める言葉で自信を持たせている)
	実態把握個別指導	1		机列表を持って実態把握に努めている(課題が把握できているか。追究方法は理解できているか。)
		2		よく理解できていない、考えが深まらない生徒に対して、個別で指導にあたるようにしている
		3		隣同士(周囲の生徒と)で確認したり相談したりする時間を適宜設けている(不安を解消し、安心して発言できる雰囲気を作っている)
		4		レディネステスト等を実施し、生徒の実態把握(既習事項の定着や生活経験知)を行い、指導に役立っている ※協議会:「レディネステスト等を実施して、児童生徒の実態把握を行う学校体制を整える」
ふかめるⅡ(仲間との追究・言語活動の充実)	話す・聞く基本姿勢	1		話し手:声の大きさ、話す方向に注意させ交流させている
				話し手:「聞いてください」「どうですか」と仲間へ声をかけさせている
				聞き手:話し手に対して体を向けて聞くように指導している
				聞き手:「わかりました」「わかりません。聞こえません」等、仲間の意見への反応を指導している
	自分の考え	2		仲間の意見を聞いて、自分の考えをもつ時間を保証している
		3		班交流の場を設定している(教え合い・学び合い) または、課題別等で交流の場を設定している
	多くの生徒の発言	1		生徒の思考の流れを大切に、生徒の発言を整理している
		2		相手に分かりやすいように話させている (例:結論を述べて、理由根拠を話すように指導している)
		3		より多くの生徒が、発言に関わるように配慮している
		4		(例:同じ内容の発言でも、別の生徒を指名し、その生徒の言葉で語らせている)
		5		つながりのある発言、質問、疑問、反対意見を特に大切に発言させている
		6		支援表や机列表をもとに、意図的な指名をし、深まり、広がりのある全体交流を行っている
		7		思考を深めるための切り返し発問や揺さぶりの発問を用意している 思考力を高めるために、言語活動を工夫している(どこで、どのような) ※協議会:「授業展開のどこで、どのような言語活動を行うことが効果的かを考え、指導過程に位置付ける」
まとめる	学習のまとめ自己評価	1		自分の言葉で、学習のまとめを書かせている (課題が解決できたか、課題に対してまとめが書かれているか)
		2		自己評価カードを使用している
		3		または、ノートにまとめの形で自己評価をさせている 自己評価や個のまとめの内容を全体へ広げている
板書計画	構造的な板書	1		単位時間で、黒板1枚に収めている
		2		板書計画を立てて授業に臨んでいる
		3		生徒の思考を助ける板書になるように心がけている (例:既習事項・活用する語句や公式・実験図・ペーパーサート等)
		4		思考の流れが分かるように書いている
		5		生徒の言葉をひろい、適切な表現でまとめている